

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

平成 20 年 第 3 号 (2008.11)

さる 10 月 16 日に平成 20 年第 3 回定例会が開会され、同月 29 日に一般質問が行われ、議案 2 件、認定 2 件を可決・認定して閉会しました。

今回の一般質問では、藤原まゆみ議員（四日市市議会選出）、大野秀郎議員（三重県議会選出）の二人が壇上から四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

藤原まゆみ 議員



「四日市港港湾環境計画書」にはCO2削減等の時代的要素が入っていないので「新たな環境計画」が必要であるとともに、環境対策を前面にしたポートセールスが必要ではないか。現在、港湾計画の前提となる四日市港長期構想において、環境面の取組も検討しており、環境計画については新しい港湾計画の中に組み入れていきます。具体的には、グリーン物流の促進や荷役作業などの港湾活動に伴い発生するCO2削減などを計画に位置付け、環境対策が四日市港のセールスポイントとなるよう、取組を進めてまいりたいと考えております。**管理組合の平成 21 年度重点項目の取組で「阿瀬知川の河川浄化を地域住民と連携していく」とあるがどのような取組を想定しているか。**

阿瀬知川河口部に堆積している汚泥の土量の調査や浚渫工法等について今年度検討し、来年度の事業化に繋がりたいと考えています。また、水質の季節変動が把握できるようこれまでの年 1 回の水質検査を今年度から年 4 回とし、その結果について関係者へ情報提供を行うとともに、ホームページで公表していきます。

大野秀郎 議員



航路誘致や荷主大企業へはトップセールスに取り組むべきと考えるが、管理者としてはどう考えるか。

地域経済の持続的発展に向けて、四日市港の港勢拡大がより一層重要になるから、今後も機を捉え、時機を逸することなくトップセールスを行っていきます。

四日市港管理組合の職員数は、取扱貨物量が同港より大きい苫小牧管理組合と比べて多いが、苫小牧港の運営体制と比べ、どこでどのように重点化して人員配置しているのか。

当管理組合の職員数は 97 名で、苫小牧管理組合の 57 名と比べ 40 名多くなっており、当管理組合では管理課、振興課、整備課に多くの人員を配置しています。これは、背後圏の産業支援のための集荷対策や航路誘致及び親しまれる港づくりへの積極的な取組、ひき船運營業務や施設の老朽化に伴う管理業務、また、環境への取組と公共岸壁等の防潮扉などの海岸保全施設の多さに伴う工事施工業務に多く人員を配置していることによるものです。